

(様式第 10)

鹿大医歯病総第 789 号  
平成 28 年 10 月 1 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人鹿児島大学長  
前 田 芳 實

(印)

鹿児島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒890-8580 鹿児島県鹿児島市郡元1丁目21番24号
氏 名	国立大学法人鹿児島大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

鹿児島大学病院
---------

3 所在の場所

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号	電話(099)275-5111
-------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科 2 消化器内科 3 循環器内科 4 神経内科 5 リウマチ科 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
1 呼吸器外科	2 消化器外科	3 心臓血管外科	4 小児外科	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		⑬麻酔科	⑭救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1 矯正歯科	2 小児歯科	3 歯科口腔外科	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 心療内科	2 リハビリテーション科	3 病理診断科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40 床	床	13 床	床	663 床	716 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	218人	287人	445.7人	看護補助者	59人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	103人	41人	137.0人	理学療法士	12人	臨床検査技師	48人
薬剤師	53人	3人	56人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	4人	その他	5人
助産師	23人	1人	23.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	637人	23人	654.8人	臨床工学士	20人	医療社会事業従事者	10人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員	23人
歯科衛生士	14人	2人	16人	歯科技工士	5人	事務職員	166人
管理栄養士	7人	4人	11人	診療放射線技師	37人	その他の職員	35人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月1日現在)

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	27人	眼科専門医	15人
外科専門医	45人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	10人	放射線科専門医	15人
小児科専門医	17人	脳神経外科専門医	16人
皮膚科専門医	9人	整形外科専門医	11人
泌尿器科専門医	14人	麻酔科専門医	17人
産婦人科専門医	10人	救急科専門医	4人
		合計	219人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 熊本 一朗 ) 任命年月日 平成23年4月1日

- ・医療安全管理委員会委員 (平成16~18、23~28年度)
- ・インシデント分析専門委員会委員 (平成16年度)
- ・インシデント報告の分析WG構成員 (平成14年度)
- ・インシデント報告書WG構成員 (平成17~18年度)
- ・医療安全管理システム対策専門委員会委員 (平成16年度)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	539.3人	27.0人	566.3人
1日当たり平均外来患者数	851.2人	404.5人	1255.7人
1日当たり平均調剤数	1,268 剤		
必要医師数	110人		
必要歯科医師数	8人		
必要薬剤師数	19人		
必要(准)看護師数	326人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	725m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	14床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急衛生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 245m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 8台		病床数	16床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 30m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 無					
化学検査室	304m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ティスクリット方式臨床化学自動分析装置、免疫比濁分析装置、免疫蛍光分析装置、免疫発光測定装置、蛋白分画電気泳動分析装置、グルコース分析装置、グリコヘモグロビン分析装置、血液計数装置、血液塗抹標本作製装置、フローサイトメータ			
細菌検査室	45m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養自動分析装置、遺伝子解析装置、嫌気培養装置、炭酸ガス培養装置、抗酸菌培養検査装置、免疫蛍光測定装置、微生物分類同定分析装置、微生物由来成分分析装置、微生物感受性分析装置			
病理検査室	39m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 密閉式自動固定包埋装置、パラフィン包埋ブロック作製装置、滑走式マイクローム、自動染色装置、自動封入装置、自動免疫染色・ISH装置、凍結切片作製装置、集細胞遠心装置、顕微鏡、病理・細胞診検査業務支援システム			
病理解剖室	273m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ハイパースト対応排気システム、排水蒸気滅菌処理システム			
研究室	8,026m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ガスクロマトグラフ、電子顕微鏡			
講義室	655m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	3室	収容定員	499人
図書室	1,980m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	8室	蔵書数	185,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	79.9 %	逆紹介率	74.1 %
算出根拠	A：紹介患者の数	13,586 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,477 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	935 人	
	D：初診の患者の数	18,185 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
	計画書の提出あり			有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     計画書の提出あり                 </div>	



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	5人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
実物大臓器立体モデルによる手術支援	1人
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	26人
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	21人
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法	7人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	0人
S-1内服投与オキサリプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	0人
術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	3人
インターフェロン $\alpha$ 皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法(届出予定)	1人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテーラーメイドのがんワクチン療法	0人
カペシタビン内服投与、シスプラリン静脈内投与及びドセタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	96
2	筋萎縮性側索硬化症	14	57	特発性拡張型心筋症	43
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	10
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	4	60	再生不良性貧血	28
6	パーキンソン病	53	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	1	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	55
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3	65	原発性免疫不全症候群	9
11	重症筋無力症	86	66	IgA腎症	17
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	6
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	60	68	黄色靱帯骨化症	10
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	19	69	後縦靭帯骨化症	81
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	8
16	クロー・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	59
17	多系統萎縮症	10	72	下垂体性ADH分泌異常症	11
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	51	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライゾソーム病	10	74	下垂体性PRL分泌亢進症	43
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	20	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	36	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	53
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	144
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	18	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	9	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	118
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	24
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	28
32	自己食食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	22
34	神経線維腫症	56	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	19	90	網膜色素変性症	76
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿瘍性乾癬(汎発型)	15	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	16
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	31	95	自己免疫性肝炎	5
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	52
42	結節性多発動脈炎	7	97	潰瘍性大腸炎	73
43	顕微鏡的多発血管炎	25	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	7	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	2	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	10	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャール病	16	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	312	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	105	105	チャーシ症候群	0
51	全身性強皮症	119	106	クリオピリン関連周期熱症候群	2
52	混合性結合組織病	36	107	全身型若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	13	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人ステル病	3	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	5
113	筋ジストロフィー	0	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	2
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スфероイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	1
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	2
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウエルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	3	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	4
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維鼻形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーンハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンゴニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシユスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	5
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・退院支援加算
・歯科外来診療環境体制加算	・精神疾患診療体制加算
・歯科診療特別対応連携加算	・精神科急性期医師配置加算
・特定機能病院入院基本料	・救命救急入院料1
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料1
・診療録管理体制加算1	・新生児特定集中治療室管理料2
・医師事務作業補助体制加算1	・小児入院医療管理料2
・急性期看護補助体制加算	・短期滞在手術等基本料2
・看護職員夜間配置加算	・
・看護補助加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・総合評価加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・
・データ提出加算	・

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・神経学的検査
・糖尿病合併症管理料	・補聴器適合検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ロービジョン検査判断料
・がん患者指導管理料1	・コンタクトレンズ検査料1
・がん患者指導管理料2	・内服・点滴誘発試験
・がん患者指導管理料3	・有床義歯咀嚼機能検査
・外来緩和ケア管理料	・画像診断管理加算2
・糖尿病透析予防指導管理料	・歯科画像診断管理加算1
・外来放射線照射診療料	・歯科画像診断管理加算2
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影
・医療機器安全管理料1	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料2	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・外傷全身CT加算
・歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)	・心臓MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・乳房MRI撮影加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・検体検査管理加算(I)	・外来化学療法加算1
・検体検査管理加算(IV)	・無菌製剤処理料
・国際標準検査管理加算	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・遺伝カウンセリング加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・運動器リハビリテーション料(I)
・胎児心エコー法	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・がん患者リハビリテーション料
・ヘッドアップティルト試験	・集団コミュニケーション療法料
・長期継続頭蓋内脳波検査	・歯科口腔リハビリテーション料2



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・認知療法・認知行動療法1	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・医療保護入院等診療料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	・補助人工心臓
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算及び手術時歯根面レーザー応用加算	
・CAD/CAM冠	・腹腔鏡下肝切除術
・歯科技工加算1及び2	・生体部分肝移植術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術	・腎腸瘍凝固・燃灼術(冷凍凝固によるもの)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・同種死体腎移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのもの))	・生体腎移植術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・膀胱水圧拡張術
・網膜再建術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・輸血管理料Ⅱ
	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	139回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 10 例 / 剖検率 5.2 %



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
データマイニング技法を応用した医療の質とコストの適正化要因の発見手法に関する研究	熊本 一朗	病院長	910,000	補○委 日本学術振興会
心不全入院患者の来院時血糖値と院内死亡との関連	大石 充	心臓血管内科	2,000,000	補○委○ えびの市
心不全入院患者の来院時血糖値と院内死亡との関連についての検討	大石 充	心臓血管内科	500,000	補○委○ (公社)肝属郡医師会立病院
心臓サルコイドシスに関する診断と治療効果の全国実態調査	大石 充	心臓血管内科	135,000	補○委○ 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
心不全入院患者の来院時血糖値と院内死亡との関連についての検討	大石 充	心臓血管内科	1,300,000	補○委○ 出水市病院事業管理者
心不全入院患者の来院時血糖値と院内死亡との関連についての検討	大石 充	心臓血管内科	1,000,000	補○委○ 垂水市立医療センター垂水中央病院
地域住民における脳血管疾患発症に対して効果的な血圧管理についての検討	大石 充	心臓血管内科	2,160,000	補○委○ 枕崎市立病院
サルコペニアにおけるレニン・アンジオテンシン系の作用およびメカニズムの解明	赤崎 雄一	心臓血管内科	1,430,000	補○委 日本学術振興会
CFAEアブレーションを軸とした慢性心房細動の包括的新規治療法の開発	桶谷 直也	心臓血管内科	1,170,000	補○委 日本学術振興会
葉酸レセプターβ抗体を用いた分子イメージングの前臨床試験と新規診断法の開発	宮田 昌明	心臓血管内科	1,560,000	補○委 日本学術振興会
重症下肢虚血患者における血管内皮増殖因子(VEGF)、マイクロRNAおよび出血栓の解析	井本 浩	心臓血管外科	1,000,000	補○委○ (公社)肝属郡医師会立病院
昏睡型急性肝不全に対する血液浄化装置HAYATEの昏睡覚醒効果に関する臨床試験(医師主導治験)	井戸 章雄	消化器内科	3,900,000	補○委○ 岩手医科大学
南九州におけるHCV薬剤耐性変異の検討	井戸 章雄	消化器内科	2,000,000	補○委○ 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
生活習慣病が消化器疾患や腎疾患の病態進展に及ぼす影響に関する研究	井戸 章雄	消化器内科	2,000,000	補○委○ 国民健康保険高原病院
C型肝炎ウイルス選択的抗ウイルス剤の薬剤耐性変異とその治療効果の検証	井戸 章雄	消化器内科	5,200,000	補○委○ 出水市病院事業管理者
C型肝炎患者さんの感染経路に関するアンケート調査	井戸 章雄	消化器内科	314,500	補○委○ 国立病院機構長崎医療センター
組織修復マクロファージに発現する新規分子Gpnmfの肝癌の発育・進展に及ぼす影響	井戸 章雄	消化器内科	1,430,000	補○委 日本学術振興会
好中球由来ペプチドの膵炎に対する影響と臨床的意義の検討	橋元 慎一	消化器内科	2,600,000	補○委 日本学術振興会
【受託研究】消化器癌の化学(放射線療法)の感受性予測に関する研究	夏越 祥次	消化器外科	2,000,000	補○委○ えびの市
癌の進展に対する診断の精度向上に関する研究	夏越 祥次	消化器外科	2,000,000	補○委○ 国民健康保険高原病院

小計20

消化器癌における癌幹細胞の同定および薬剤耐性・感受性に関する検証	夏越 祥次	消化器外科	3,000,000	補委○	小林市立病院
術前化学療法が消化器癌組織に与える影響・役割について	夏越 祥次	消化器外科	1,000,000	補委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
膀胱術前化学療法としてのGemcitabine+S-1療法(GS療法)の第II/III相臨床試験(Prep-02/JASAP-05)	夏越 祥次	消化器外科	30,000	補委○	特定非営利活動法人日本臨床研究支援ユニット
膵臓癌のリンパ行性転移のメカニズム解明とその制御法確立のための基礎的研究	蔵原 弘	消化器外科	2,210,000	補委○	日本学術振興会
新規蛍光物質gGlu-HMRGの臨床応用と遺伝学的アプローチからの精度向上	新田 吉陽	消化器外科	3,120,000	補委○	日本学術振興会
5-アミノレブリン酸とICGを用いた大腸癌術中蛍光診断法の開発	馬場 研二	消化器外科	1,300,000	補委○	日本学術振興会
消化器癌幹細胞のROS産生能と化学・放射線療法感受性に関する基礎研究と臨床応用	奥村 浩	消化器外科	2,210,000	補委○	日本学術振興会
消化器癌の微量癌細胞の着床・増殖機序の解明と臨床応用	夏越 祥次	消化器外科	5,720,000	補委○	日本学術振興会
N型糖鎖を用いた膵臓癌特異的癌腫瘍マーカーの開発	夏越 祥次	消化器外科	1,820,000	補委○	日本学術振興会
消化器癌における腫瘍間質から見た抗癌剤耐性のメカニズムの解明とその克服	石神 純也	消化器外科	2,470,000	補委○	日本学術振興会
消化器癌における免疫回避機構の解明とその制御に関する基礎的研究	有上 貴明	消化器外科	910,000	補委○	日本学術振興会
Crow-Fukase (POEMS) 症候群に対するFPF300の継続投与試験	渡邊 修	神経内科	800,000	補委○	(公社)日本医師会治験促進センター
免疫性ニューロパチーの治療反応性予測に基づく有効な治療戦略の構築	高嶋 博	神経内科	520,000	補委○	近畿大学
有効性評価指標の開発(多施設共同前向き研究)	高嶋 博	神経内科	1,300,000	補委○	聖マリアンナ医科大学
ミトコンドリア病の筋病理における診断率向上に関する研究	高嶋 博	神経内科	1,000,000	補委○	(公社)肝属郡医師会立病院
難治性ニューロパチーの診断技術と治療法の開発に関する研究	高嶋 博	神経内科	500,000	補委○	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
神経筋疾患の原因究明および革新的治療法開発に関する研究	高嶋 博	神経内科	50,800,000	補委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ミトコンドリア病診療の質を高める、レジストリシステムの構築、診断基準・診療ガイドラインの策定および診断システムの整備を行う臨床研究	高嶋 博	神経内科	400,000	補委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ミトコンドリア病の原因究明及び病態解析の研究	高嶋 博	神経内科	1,300,000	補委○	出水市病院事業管理者
子宮頸がんワクチン関連神経障害の病態解析	高嶋 博	神経内科	300,000	補委○	垂水市立医療センター垂水中央病院

希少難治性脳・脊髄疾患の歩行障害に対する生体電位駆動型下肢装着型補助ロボット(HAL-HN01)を用いた新たな治療実用化のための多施設共同医師主導治験の実施研究	高嶋 博	神経内科	3,594,500	補 委○	国立病院機構新潟病院
Charcot-Marie-Tooth病の分子病態の解析と治療薬探索	岡本 裕嗣	神経内科	1,690,000	補 委○	日本学術振興会
次世代遺伝子解析による新型脳炎の原因究明及び神経感染症診断システムの構築	高嶋 博	神経内科	7,150,000	補 委○	日本学術振興会
自己免疫性脳炎の病態解析および新規抗原の解明	渡邊 修	神経内科	1,560,000	補 委○	日本学術振興会
間脳下垂体機能障害関する長期予後調査研究	有田 和徳	脳神経外科	364,000	補 委○	国立病院機構京都医療センター
新規脂肪酸受容体GPR40を介する疼痛抑制メカニズムの研究	大吉 達樹	脳神経外科	1,560,000	補 委○	日本学術振興会
悪性グリオーマの腫瘍内免疫におけるWntの役割解明と治療への応用	平野 宏文	脳神経外科	2,340,000	補 委○	日本学術振興会
脳卒中後疼痛・情動異常発症メカニズムの検討-「ミクログリア活性化仮説」の評価-	有田 和徳	脳神経外科	1,820,000	補 委○	日本学術振興会
間質性肺疾患におけるバイオマーカーの検討	井上 博雅	呼吸器内科	750,000	補 委○	(公社)肝属郡医師会立病院
COPDに関する啓発と早期発見のための方策に関する研究	井上 博雅	呼吸器内科	8,000,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
重症喘息およびCOPD患者の地域特性にも関連したコホート研究	井上 博雅	呼吸器内科	1,300,000	補 委○	出水市病院事業管理者
地域における若年性COPDの病態と背景因子の検討	井上 博雅	呼吸器内科	300,000	補 委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
自然免疫認識機構に基づく難治性炎症性・感染性肺疾患の病態解析	井上 博雅	呼吸器内科	3,900,000	補 委○	日本学術振興会
血液・気道上皮被覆液miRNA発現解析に基づく呼吸器疾患バイオマーカーの検討	寒川 卓哉	呼吸器内科	1,400,000	補 委○	日本学術振興会
気管支喘息における非神経性コリン性炎症の関与と制御に関する研究	東元 一晃	呼吸器内科	780,000	補 委○	日本学術振興会
鹿児島県のCT検診に関する研究	佐藤 雅美	呼吸器外科	806,000	補 委○	金沢医科大学
小型肺癌に対する区域切除術の適応とコンピュータ画像解析技術を利用した術前シミュレーション	佐藤 雅美	呼吸器外科	300,000	補 委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
ミトコンドリア多形解析に基づいた肺腺癌ドライバー変異体系化と発癌時遺伝子変異子測	佐藤 雅美	呼吸器外科	780,000	補 委○	日本学術振興会
TLRsとその下流因子の肺癌進行における役割の解明	青木 雅也	呼吸器外科	1,950,000	補 委○	日本学術振興会
サルコペニアの病態解明と治療法の開発	浅川 明弘	心身医療科	2,250,000	補 委○	日本学術振興会

サルコペニアの病態解明と治療法の開発—新規筋由来ペプチドからのアプローチ	浅川 明弘	心身医療科	2,250,000	補 委○	日本学術振興会
食欲調節ペプチド自己抗体のクローニングとその意義の解明—グレリンを中心に—	乾 明夫	心身医療科	3,510,000	補 委○	日本学術振興会
摂食障害の食欲および食行動調節におけるアディポネクチンの役割	網谷 東方	心身医療科	1,300,000	補 委○	日本学術振興会
マイクロRNAによる新規泌尿器癌治療の開発のためのin vivo実験	中川 昌之	泌尿器科	2,000,000	補 委○	(公社)肝属郡医師会立病院
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	中川 昌之	泌尿器科	299,000	補 委○	九州大学
マイクロRNAによる新規泌尿器癌治療の開発のためのin vivo実験	中川 昌之	泌尿器科	2,000,000	補 委○	小林市立病院
尿路由来大腸菌のフルオロキノロン耐性遺伝子についての解析	中川 昌之	泌尿器科	300,000	補 委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
膀胱癌転移モデルマウスを用いた癌抑制型マイクロRNAの増殖/転移抑制機構の解明	井手迫 俊彦	泌尿器科	1,170,000	補 委○	日本学術振興会
膀胱癌に対するナノセルを介した癌抑制型マイクロRNAによる新規核酸治療の開発	榎田 英樹	泌尿器科	5,070,000	補 委○	日本学術振興会
機能性RNA分子ネットワーク解析による膀胱がんの新規個別化治療の確立	中川 昌之	泌尿器科	520,000	補 委○	日本学術振興会
血中低分子核酸を指標にした腎細胞癌新規腫瘍マーカーの開発	鎌野 秀一	泌尿器科	130,000	補 委○	日本学術振興会
成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)に対する新規治療を開発する医師主導治験	吉満 誠	血液・膠原病内科	800,000	補 委○	福岡大学
患者登録・治療・追跡	吉満 誠	血液・膠原病内科	1,500,000	補 委○	国立研究開発法人国立がん研究センター
研究統括補佐・調整、適格例の登録・治療・評価、モニタリング	石塚 賢治	血液・膠原病内科	1,000,000	補 委○	国立研究開発法人国立がん研究センター
HTLV-1疫学研究及び検査法の標準化に関する研究	石塚 賢治	血液・膠原病内科	1,610,817	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)に対する新規治療を開発する医師主導治験	石塚 賢治	血液・膠原病内科	34,867,704	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
プロトコル検討、作成と治験の実施	石塚 賢治	血液・膠原病内科	3,359,249	補 委○	大阪大学
成人T細胞白血病リンパ腫患者へのモガムリズマブ投与が末梢血制御性T細胞におよぼす影響についての検討	吉満 誠	血液・膠原病内科	300,000	補 委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
特異的キメラ抗原受容体導入T細胞によるATLへの免疫遺伝子治療法開発	吉満 誠	血液・膠原病内科	1,560,000	補 委○	日本学術振興会
高齢糖尿病患者のサルコペニアと自律神経障害に関する研究	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	250,000	補 委○	(公社)肝属郡医師会立病院



糖尿病性多発神経障害の臨床病期の前向き研究	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	500,000	補委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
枕崎地区における糖尿病重症化予防に関する研究	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	1,080,000	補委○	枕崎市立病院
【受託研究】エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験	喜島 祐子	乳腺・甲状腺外科	140,000	補委○	(公団)パブリックヘルスリサーチセンター
ホルモン陽性HER2陰性転移・再発乳癌を対象としたパクリタキセル+ペバシズマブ導入化学療法後のホルモン維持療法とホルモン療法+カペシタビン併用維持療法の無作為化第Ⅱ臨床試験(KBCSG-TR1214)	喜島 祐子	乳腺・甲状腺外科	40,000	補委○	特定非営利活動法人臨床研究・教育支援センター
幹細胞マーカーを用いた癌細胞競合下における真の浸潤・転移癌細胞の同定と機序解明	喜多 芳昭	乳腺・甲状腺外科	2,080,000	補委○	日本学術振興会
乳癌治療時の遊離真皮脂肪片(FDFG)移植に関する基礎的・臨床的研究	喜島 祐子	乳腺・甲状腺外科	1,430,000	補委○	日本学術振興会
頭側尾側アプローチによる新しい内視鏡下頸部部清術に関する研究	中条 哲浩	乳腺・甲状腺外科	780,000	補委○	日本学術振興会
若年認知症関連遺伝子群の包括的変異解析と高齢初発てんかんの特異的臨床症状の抽出	石塚 貴周	神経科精神科	3,250,000	補委○	日本学術振興会
特異な中間表現型を有した統合失調症多発家系から同定した責任遺伝子の解析	中村 雅之	神経科精神科	3,510,000	補委○	日本学術振興会
転移性肝芽腫に対する薬剤開発戦略としての国際共同臨床試験	岡本 康裕	小児科	1,500,000	補委○	広島大学
出水地区における小児保健を含む小児医療体制の充実に関する研究	河野 嘉文	小児科	2,600,000	補委○	出水市病院事業管理者
再発小児・AYA(Adolescent and Young Adult)世代固形腫瘍に対する2剤併用化学療法についての多施設共同臨床研究	岡本 康裕	小児科	500,000	補委○	新潟県立がんセンター新潟病院
枕崎地区における小児予防接種率向上と小児医療体制充実に関する研究	河野 嘉文	小児科	1,080,000	補委○	枕崎市立病院
川崎病血管炎における冠動脈後遺症の機序の解明	上野 健太郎	小児科	650,000	補委○	日本学術振興会
シクロオソファミドの心筋障害のメカニズムと発症予防法の探求	西川 拓朗	小児科	1,950,000	補委○	日本学術振興会
WT1蛋白を標的とするナノ粒子を用いた白血病の高感度MRD診断法の確立	岡本 康裕	小児科	1,170,000	補委○	日本学術振興会
手術器具による視野遮蔽領域を補完する“死角なき”小児外科手術ロボットの開発	家入 里志	小児外科	2,990,000	補委○	日本学術振興会
共焦点内視鏡とスペクトロスコープによるHybrid消化管神経叢診断システムの確立	家入 里志	小児外科	1,170,000	補委○	日本学術振興会
独自の視点からのヒト歯髄幹細胞の同定、選択的濃縮および特性解析	稲田 絵美	小児歯科	1,170,000	補委○	日本学術振興会
気道通気障害と口蓋扁桃肥大が小児の咀嚼・嚥下機能におよぼす包括的研究	山崎 要一	小児歯科	2,730,000	補委○	日本学術振興会

上気道通気障害小児の過大吸気陰圧は下顎を後退させる一流体構造連成解析を用いて	山崎 要一	小児歯科	650,000	補○ 委	日本学術振興会
いびきの音響解析を用いたOSAS診断のための新たな検査法の開発	菅 北斗	小児歯科	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
小児における口呼吸が誘発する異常咀嚼・嚥下機能の3次元動態解析	武元 嘉彦	小児歯科	2,600,000	補○ 委	日本学術振興会
早期子宮頸がんに対する準広汎子宮全摘術の有益性を検証する研究	小林 裕明	産科、婦人科	900,000	補 委○	国立研究開発法人 国立がん研究センター
【受託研究】妊婦専門相談支援推進研究	堂地 勉	産科、婦人科	619,542	補 委○	鹿児島県
婦人科悪性腫瘍に対する血管新生阻害薬のサロゲートマーカーの探索	堂地 勉	産科、婦人科	1,300,000	補 委○	出水市病院事業管理者
軟骨肉腫浸潤能に影響するBMP誘導性PEG10の機能解析	小宮 節郎	整形外科・ リウマチ外科	500,000	補 委○	(公社)肝属郡医師会立病院
新規drug delivery system に関する研究	小宮 節郎	整形外科・ リウマチ外科	1,000,000	補 委○	公立種子島病院組合
骨軟部肉腫における増殖シグナルの研究横紋筋肉腫	小宮 節郎	整形外科・ リウマチ外科	2,000,000	補 委○	小林市立病院
大型動物脊髄損傷モデルを用いたiPS細胞由来神経幹細胞移植による再生治療研究	あべ松 昌彦	整形外科・ リウマチ外科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
薬剤によるマクロファージオートファジー抑制による人工関節長期耐用研究	小宮 節郎	整形外科・ リウマチ外科	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会
骨軟部腫瘍の細胞外マトリックス制御による抗腫瘍薬デリバリー改善の新技术開発	永野 聡	整形外科・ リウマチ外科	2,210,000	補○ 委	日本学術振興会
軟骨肉腫分化誘導療法に向けたTGF-βシグナルの標的遺伝子検索と機能解析	横内 雅博	整形外科・ リウマチ外科	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
脊柱靭帯骨化症発症に重要な内軟骨性骨化変化の責任機能遺伝子同定と機能解析	河村 一郎	整形外科・ リウマチ外科	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会
Notchシグナル下流因子HEY1制御による骨軟部腫瘍転移抑制	山元 拓哉	整形外科・ リウマチ外科	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
Smpd3の軟骨細胞肥大分化及びヒアルロン酸産生減少における機能解析	梶 博則	整形外科・ リウマチ外科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
リンソーム病の診断および治療法開発に関する研究	金蔵 拓郎	皮膚科	1,100,000	補 委○	明治薬科大学
腫瘍細胞の生存調節因子としてのCD147/basiginの機能解析	金蔵 拓郎	皮膚科	910,000	補○ 委	日本学術振興会
鹿児島県内眼科疾患の研究	坂本 泰二	眼科	500,000	補 委○	(公社)肝属郡医師会立病院
北薩地区の眼疾患の概要	坂本 泰二	眼科	1,300,000	補 委○	出水市病院事業管理者

垂水地区における小中学生の眼疾患の疫学的調査	坂本 泰二	眼科	800,000	補 委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
網膜剥離における分子病態の解析	大塚 寛樹	眼科	1,170,000	補 委○	日本学術振興会
眼軸長伸長に伴う眼底微細構造変化の解明	山下 高明	眼科	1,560,000	補 委○	日本学術振興会
ヒト極性網膜色素上皮細胞を使った網脈絡膜疾患の病態制御に関する研究	園田 祥三	眼科	2,340,000	補 委○	日本学術振興会
総合硝子体学の研究:基盤病態解明と治療の研究	坂本 泰二	眼科	5,460,000	補 委○	日本学術振興会
眼科セラノスティクス (theranostics) の研究	坂本 泰二	眼科	2,210,000	補 委○	日本学術振興会
極性をもつ網膜色素上皮細胞を用いた加齢黄斑変性の病態解明	寺崎 寛人	眼科	1,560,000	補 委○	日本学術振興会
屋久島町における耳鼻咽喉科疾患の疫学的調査	黒野 裕一	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	620,000	補 委○	屋久島町
垂水市内の小中学生における耳鼻咽喉科疾患の疫学的調査研究	黒野 祐一	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	240,590	補 委○	垂水市
PC-KLHを用いた経皮ワクチンの開発	黒野 裕一	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	300,000	補 委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
鹿児島県内の小中学生における耳鼻咽喉科疾患の疫学的調査研究	黒野 祐一	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	667,000	補 委○	西之表市
ホスホリコリンを用いた多機能性粘膜ワクチンの開発	黒野 祐一	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	1,040,000	補 委○	日本学術振興会
ウサギ脂肪肝モデルを用いた門脈塞栓術の検討	林 完勇	放射線科	1,560,000	補 委○	日本学術振興会
pH強調MR画像の開発と急性期脳梗塞における組織予後推定への応用	吉浦 敬	放射線科	5,070,000	補 委○	日本学術振興会
MR分子イメージングによる脳内アミロイド検出法の開発:PET/MRIを用いた研究	吉浦 敬	放射線科	1,690,000	補 委○	日本学術振興会
I型コラーゲンを用いた安全で効果的な経カテーテル治療用新規液状塞栓物質の開発	永里 耕平	放射線科	1,950,000	補 委○	日本学術振興会
パーキンソン病における神経変性を可視化する細胞内タンパクイメージング法の開発	上村 清央	放射線科	2,210,000	補 委○	日本学術振興会
周術期ストレスホルモンによる体温調節機構	上村 裕一	麻酔科	4,550,000	補 委○	日本学術振興会
PACAP-PAC1誘発アストロサイトシグナル伝達を標的とする慢性疼痛治療戦略	大納 哲也	麻酔科	1,430,000	補 委○	日本学術振興会
TRPA1による酸素感知の意義	黒木 千晴	麻酔科	1,430,000	補 委○	日本学術振興会

肝虚血再灌流障害における細胞外マトリックスの修飾を介した麻酔薬の臓器保護作用の検討	中原 真由美	麻酔科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
プロポフォール注入症候群発症の機序解明とカルニチンによる抑制効果	森山 孝宏	麻酔科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
手術中強化インスリン療法によるProtein sparing effectの導入	遠矢 明菜	歯科麻酔科	2,860,000	補○ 委	日本学術振興会
歯科治療中の笑気吸入とイーージーリスニングが自律神経機能に及ぼす影響	梶山 加綱	歯科麻酔科	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
血管内皮機能と指尖容積脈波からみた理想的な全身麻酔法の開発	糺谷 淳	歯科麻酔科	650,000	補○ 委	日本学術振興会
脳卒中を含む循環器病対策の評価指標の開発に関する研究	下堂 菌 恵	リハビリテーション科	520,000	補 委○	九州大学
Rey-Osterriethの図なぞり書き課題を用いた新しい高次脳機能障害評価法の検討	下堂 菌 恵	リハビリテーション科	300,000	補 委○	垂水市立医療センター垂水中央病院
希少難治性脳・脊髄疾患の歩行障害に対する生体電位駆動型下肢装着型補助ロボット(HAL-HN01)を用いた新たな治療実用化のための多施設共同医師主導治験の実施研究	下堂 菌 恵	リハビリテーション科	3,594,500	補 委○	国立病院機構新潟病院
脳損傷後の運動障害への包括的リハビリテーション法の開発とその作用メカニズムの解明	下堂 菌 恵	リハビリテーション科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
脳卒中片麻痺に対する神経筋電気刺激の効果	松元 秀次	リハビリテーション科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
経頭蓋磁気刺激を同期させた促通反復療法と低周波、振動刺激併用による片麻痺治療	衛藤 誠二	リハビリテーション科	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
口腔細菌による動脈硬化発症における先天性免疫因子gp-340の関与	於保 孝彦	口腔保健科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
頭頸部周期口腔ケアにおける口腔清掃度の評価-心理学的アプローチと細菌学的検証-	五月女 さき子	口腔保健科	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会
ヒト歯垢による動脈硬化誘発機序の実験的解明	長田 恵美	口腔保健科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
SLC6A4遺伝子多型と機能性ディスベシアおよび睡眠時ブラキシズムとの関連	池森 宇泰	矯正歯科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
新たな自動皮膚骨埋入型アンカースクリューを用いた顎整形力付与治療システムの考案	友成 博	矯正歯科	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
脳機能を介した片頭痛-酸関連疾患-顎関節症の負のサイクルの解明	永山 邦宏	矯正歯科	2,210,000	補○ 委	日本学術振興会
ヒトPS細胞への転写因子Msx2導入による骨芽細胞への分化・骨形成に関する研究	山本 芳丈	矯正歯科	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
遺伝子多型に応じた機能性ディスベシアの治療がブラキシズムに及ぼす効果の解明	宮脇 正一	矯正歯科	12,220,000	補○ 委	日本学術振興会
成長期の矯正治療が睡眠時無呼吸、胃食道逆流及び呼吸器疾患に及ぼす効果の解明	宮脇 正一	矯正歯科	2,730,000	補○ 委	日本学術振興会

認知機能の賦活化による唾液分泌促進機序の解明:脳腸モデルとオプトジェネティクス法	植田 紘貴	矯正歯科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
胃食道逆流と関連する睡眠時ブラキシズムのPPI治療関連因子の探索	大牟禮 治人	矯正歯科	2,990,000	補○ 委	日本学術振興会
視床下部-下垂体-副腎軸・脳腸相関によるストレス調整と顎口腔機能の関連性の解明	八木 孝和	矯正歯科	2,600,000	補○ 委	日本学術振興会
顎骨の劣成長に対する外科的矯正治療が睡眠時無呼吸と胃食道逆流に及ぼす効果の解明	國則 貴玄	矯正歯科	3,120,000	補○ 委	日本学術振興会
ジルコニア/陶材傾斜機能材料の創製と歯冠修復への応用	塚田 岳司	保存科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
新規歯科材料としての熱応答性ポリウレタンの基礎的研究	富田 浩一	保存科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
象牙質内因性マトリックスメタロプロテアーゼ活性を抑制する接着修復法の開発	西谷 佳浩	保存科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
覆髄剤貼付による壊死層形成の役割-3D培養によるアラミンの硬組織誘導の解析-	宮下 桂子	保存科	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
インクレチン関連薬は根尖性歯周炎と辺縁性歯周炎の発症機序に影響を及ぼすか?	作田 哲也	保存科	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
BMP-9を軸とした新規歯周・顎骨組織再生療法の基盤確立に向けた多面的アプローチ	中村 利明	歯周病科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
早産・低体重児出産のリスク低減に向けた原因因子の解明に関する包括的アプローチ	長谷川 梢	歯周病科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
歯周炎における骨細胞の新たな機能の解明	瀬名 浩太郎	歯周病科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
成長因子と矯正力によるバイオメカノエンジニアリングで切り拓く歯周再生療法の新展開	白方 良典	歯周病科	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
セメント芽細胞分化誘導を基軸とした歯周組織再生型インプラントの基盤開発	迫田 賢二	歯周病科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
強力な骨形成タンパクBMP-9と脂肪組織由来細胞を活用した新規再生療法の開発	野口 和行	歯周病科	7,670,000	補○ 委	日本学術振興会
咀嚼感覚と耐久性に優れた新規ウレタン系軟性裏装材の開発研究	門川 明彦	冠・ブリッジ科	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
自己修復機能を有する樹脂を用いた義歯の滑沢を保つコーティング材の開発	南 弘之	冠・ブリッジ科	650,000	補○ 委	日本学術振興会
審美性と接着耐久性を兼ね備えたダイレクトボンディングブリッジの開発	峰元 里子	冠・ブリッジ科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
機能化したパイオナノファイバー強化による歯科補綴材料の開発	柳田 廣明	冠・ブリッジ科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
Aaによる歯周病とアテローム性動脈硬化症の発症への関与について	下田平 直大	義歯補綴科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会

顎骨骨髄由来間質細胞を用いた歯槽骨再生のための骨分化能診断法の開発	末廣 史雄	義歯補綴科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
脈管再生能を主体とする顎堤増生治療の開発	西村 正宏	義歯補綴科	3,120,000	補○ 委	日本学術振興会
自発的骨膜拳上能を持つ骨補填材の開発	西村 正宏	義歯補綴科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
全身疾患をもたらすStreptococcus mutans新規病原性因子の同定	藤島 慶	義歯補綴科	2,210,000	補○ 委	日本学術振興会
三次元連通気孔構造を有する新規置換型骨補填材の開発	益崎 与泰	義歯補綴科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
2型糖尿病ラットへの抗糖尿病薬投与が骨インプラント結合に与える影響について	橋口 千琴	義歯補綴科	2,340,000	補○ 委	日本学術振興会
ケアの負担軽減に繋げるための義歯に付与するブラーク付着抑制能の検討	西 恭宏	義歯補綴科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
コンビネーション保湿による新規保湿方法の開発とその有効性に関する多軸的評価	村上 格	義歯補綴科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
薩摩川内市鹿島町における住民の口腔疾患の保健管理に関する研究	杉浦 剛	口腔外科	1,000,000	補 委○	薩摩川内市
長島町における住民の口腔疾患に関する調査研究	杉浦 剛	口腔外科	1,000,000	補 委○	長島町
「うがい液からの口腔癌発癌予測システムの開発」	濱田 倫史	口腔外科	1,020,000	補 委○	科学技術振興機構
口腔扁平上皮癌におけるΔNp63を介した上皮-間葉転換の浸潤・転移における役割	後藤 雄一	口腔外科	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
口腔アンギノーサスレンサ球菌による深部感染症の発症機構の解析と宿主リスク評価法	山口 泰平	口腔保健科	2,210,000	補○ 委	日本学術振興会
転移先臓器と癌幹細胞を標的とした機能性RNAによる口腔癌新規治療法の開発	杉浦 剛	口腔外科	10,140,000	補○ 委	日本学術振興会
うがい液からのDNAメチル化異常検出による口腔癌発癌予測システムの開発	濱田 倫史	口腔外科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
口腔癌の浸潤・転移におけるがん幹細胞マーカーの発現と役割	石田 喬之	口腔顎顔面外科	780,000	補○ 委	日本学術振興会
エナメル上皮腫の骨浸潤メカニズムにおける上皮-間葉クロストーク	中村 典史	口腔顎顔面外科	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
口蓋裂術後の瘢痕拘縮分子メカニズムの解明と新規創傷被覆材開発への展開	岐部 俊郎	口腔顎顔面外科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
新規樹立したSnail高発現OSCC細胞株を用いた間葉上皮転換機構の解明	久米 健一	口腔顎顔面外科	2,080,000	補○ 委	日本学術振興会
歯性感染症病変形成時の上皮発現における上皮-間葉移行(EMT)の関与に関する研究	石畑 清秀	口腔顎顔面外科	650,000	補○ 委	日本学術振興会

歯髄幹細胞による認知症の学習・記憶障害改善効果についての検討	鈴木 甫	口腔顎顔面外科	1,690,000	補 委	日本学術振興会
HIV診療医師情報支援事業	橋口 照人	検査部	200,000	補 委	(独)国立病院機構 九州医療センター AIDS/HIV総合治療 センター
後天性凝固異常症のP.O.C.テストによる迅速診断システムの開発	橋口 照人	検査部	2,786,160	補 委	山形大学
血管内皮細胞由来microRNAによる糖尿病性血管障害機構の空間統合的解明	山口 宗一	検査部	5,980,000	補 委	日本学術振興会
血小板生理活性ペプチド定量測定による骨髄環境予測と横断的病態検査への応用展開	橋口 照人	検査部	6,110,000	補 委	日本学術振興会
低次元の血球貪食機構と免疫系・鉄代謝系の相互応答機構の存在証明への挑戦	橋口 照人	検査部	1,820,000	補 委	日本学術振興会
新規内因性低分子RNAによる大血管機能評価の臨床検査システム構築への挑戦	山口 宗一	検査部	2,340,000	補 委	日本学術振興会
術後痛と創傷治癒におけるTRPA1チャネルの役割	長谷川 麻衣子	手術部	1,950,000	補 委	日本学術振興会
【受託研究】I-MIBG 内照射療法患者登録・治療実施(革新的がん医療実用化研究事業)	神宮司 メグミ	放射線部	1,500,000	補 委	金沢大学
酸素代謝強調MR画像による肺癌の放射線・化学療法効果と予後予測法の確立	福倉 良彦	放射線部	2,210,000	補 委	日本学術振興会
敗血症性DICの生存率向上を目指してーヒストンを標的とした新規治療戦略の探索ー	伊藤 隆史	救命救急センター	9,980,000	補 委	日本学術振興会
時間分解分光システムを用いた肝組織の酸化状態の無侵襲的評価法の確立	安田 智嗣	集中治療部	1,950,000	補 委	日本学術振興会
HIV感染者等保健福祉相談事業	古川 良尚	輸血・細胞治療部	800,000	補 委	(公財)エイズ予防財団
HIV感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業(実地研修事業)	古川 良尚	輸血・細胞治療部	200,000	補 委	(公財)エイズ予防財団
短腸症候群におけるGhrelin、GLP-2を用いた残存腸管順応誘導の開発	向井 基	周産母子センター	650,000	補 委	日本学術振興会
単一ニューロン標識法による痛覚神経回路の解析	大野 幸	全身管理歯科治療部	1,690,000	補 委	日本学術振興会
中性脂肪蓄積心血管症に対する中鎖脂肪酸を含有する医薬品の開発(糖尿病による中性脂肪蓄積心血管症の動物モデル開発)	谷本 昭英	病理部	6,000,000	補 委	大阪大学
多発性口腔扁平上皮癌におけるDNAメチル化に関する研究	嶋 香織	病理部	1,560,000	補 委	日本学術振興会
膵胆管系腫瘍における早期診断システム確立及び治療に対する反応性予測に関する試み	東 美智代	病理部	1,690,000	補 委	日本学術振興会
力学的ストレスを応用した筋骨格系維持再生療法の実現化に向けた分子基盤研究	楠山 譲二	病理部	1,560,000	補 委	日本学術振興会

腸管恒常性維持機構におけるフルクトースの影響の解明	上村 修司	光学医療診療部	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
機能的ナノ磁性微粒子を使用したエクソソームの抽出と解析	盛 真一郎	光学医療診療部	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
脊髄損傷による神経因性膀胱における温度受容体の機能の解明	吉田 輝	リハビリテーション部	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
エスノグラフィーを用いた歯学コミュニケーション教育プログラムの開発	松本 祐子	歯科総合診療部	2,080,000	補○ 委	日本学術振興会
地域に根ざした歯科医療体系確立のための基礎研究	中山 歩	歯科総合診療部	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
地域基盤型医療プロフェッショナリズム教育の構築	田口 則宏	歯科総合診療部	910,000	補○ 委	日本学術振興会
難治癌の新規集学的治療開発: 遺伝子治療応答性への癌微小環境・悪液質の関わりと制御	上野 真一	腫瘍センター	780,000	補○ 委	日本学術振興会
肉腫への革新的医薬実用化を目指した独自開発の増殖制御型アデノウイルスの医師主導治験	小賤 健一郎	探索的医療開発センター	179,116,000	補 委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
正常と癌の幹細胞の分子機構解明による小児癌への革新的m-CRA治療薬の開発	小賤 健一郎	探索的医療開発センター	5,850,000	補○ 委	日本学術振興会
継続診療に繋がる退院時要約作成支援システム開発のためのデータマイニング技術の応用	岩穴口 孝	医療情報部	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
医薬品相互作用検知システム用の有害事象シグナル検知アルゴリズムの評価に関する研究	村永 文学	医療情報部	910,000	補○ 委	日本学術振興会
小児由来の腸管凝集性大腸菌のゲノム解析を通じた病原・薬剤耐性遺伝子伝播機構の研究	西 順一郎	医療環境安全部	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
食道癌の治療効果予測・再発予測に関する新規N型糖鎖マーカーの開発	内門 泰斗	医療環境安全部	780,000	補○ 委	日本学術振興会
がん幹細胞を標的とする新規がん分子標的治療薬の開発	池田 龍二	薬剤部	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
遺伝子多型を用いた小児におけるポリソナゾールの至適投与量の設計	竹下 鮎美	薬剤部	500,000	補○ 委	日本学術振興会
神経接着分子Casprを介したグリオーマ浸潤機構の解明と新規治療戦略	武田 泰生	薬剤部	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
若年性特発性関節炎(JIA)患児の抱える痛みとQOLの関係	大迫 由紀	看護部	260,000	補○ 委	日本学術振興会

小計17

合計237

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	神田 大輔	心臓血管内科	Angiotensin-Converting Enzyme Inhibitor Prevents the Worsening of Renal Function in the Late Phase after Percutaneous Coronary Intervention.	J Atheroscler Thromb. 2016;23(2):233-40.
2	佐々木 文郷	消化器内科	Double-balloon enteroscopy-assisted closure of perforated duodenal diverticulum using polyglycolic acid sheets.	Endoscopy. 2015;47 Suppl 1 UCTN:E204-5.
3	佐々木 文郷	消化器内科	Expression of glycoprotein nonmetastatic melanoma protein B in macrophages infiltrating injured mucosa is associated with the severity of experimental colitis in mice.	Mol Med Rep. 2015 Nov;12(5):7503-11.
4	馬渡 誠一	消化器内科	Horizontal transmission of de novo hepatitis B between spouses: A case report.	Hepatol Res. 2015 Aug;45(8):933-938.
5	東 美智代	病理部	Mucin expression in endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration specimens is a useful prognostic factor in pancreatic ductal adenocarcinoma.	Pancreas. 2015 Jul;44(5):728-34.
6	石神 純也	消化器外科	Human leukocyte antigen (HLA)-E and HLA-F expression in gastric cancer.	Anticancer Res. 2015 Apr;35(4):2279-85.
7	大脇 哲洋	地域医療支援センター	Present status of endoscopic mastectomy for breast cancer.	World J Clin Oncol. 2015 Jun 10;6(3):25-9.
8	奥村 浩	消化器外科	Clinical significance of mediastinoscope-assisted transhiatal esophagectomy in patients with esophageal cancer.	Langenbecks Arch Surg. 2015 Aug;400(6):699-706.
9	奥村 浩	消化器外科	Clinical features and treatment of patients with esophageal cancer and a history of gastrectomy: a multicenter, questionnaire survey in Kyushu, Japan.	Dis Esophagus. 2015 Nov 6.
10	奥村 浩	消化器外科	Ferredoxin Reductase Is Useful for Predicting the Effect of Chemoradiation Therapy on Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Anticancer Res. 2015 Dec;35(12):6471-4.

小計 10

11	喜島 祐子	乳腺・甲状腺外科	Impaired wound healing and expansion of a large ulcer after bevacizumab with paclitaxel for skin metastases from breast cancer: report of a case.	Surg Today. 2015 Apr;45(4):498-502.
12	喜島 祐子	乳腺・甲状腺外科	Immediate breast volume replacement using a free dermal fat graft after breast cancer surgery: multi-institutional joint research of short-term outcomes in 262 Japanese patients.	Gland Surg. 2015 Apr;4(2):179-94.
13	喜島 祐子	乳腺・甲状腺外科	Oncoplastic surgery in a Japanese patient with breast cancer in the lower inner quadrant area: partial mastectomy using horizontal reduction mammoplasty.	Breast Cancer. 2014 May;21(3):375-8.
14	盛 真一郎	光学医療診療部	Laparoscopic complete mesocolic excision via reduced port surgery for treatment of colon cancer.	Dig Surg. 2015;32(1):45-51.
15	盛 真一郎	光学医療診療部	Laparoscopic complete mesocolic excision with radical lymph node dissection along the surgical trunk for right colon cancer.	Surg Endosc. 2015 Jan;29(1):34-40.
16	藏原 弘	消化器外科	Predictors of early stages of histological progression of branch duct IPMN.	Langenbecks Arch Surg. 2015 Jan;400(1):49-56.
17	藏原 弘	消化器外科	Prognostication by inflammation-based score in patients with locally advanced pancreatic cancer: treated with chemoradiotherapy.	Pancreatology. 2015 Nov-Dec;15(6):688-93.
18	有上 貴明	消化器外科	Analysis of the Fibrinogen and Neutrophil-Lymphocyte Ratio in Esophageal Squamous Cell Carcinoma: A Promising Blood Marker of Tumor Progression and Prognosis.	Medicine (Baltimore). 2015 Oct;94(42):e1702.
19	樋渡 清司	消化器外科	Problems of Long Survival Following Surgery in Patients with NonBNonC-HCC: Comparison with HBV and HCV Related-HCC.	J Cancer. 2015 Mar 7;6(5):438-47.
20	喜多 芳昭	乳腺・甲状腺外科	Mucinous adenocarcinoma emerging in sigmoid colon neovagina 40 years after its creation: a case report.	World J Surg Oncol. 2015 Jul 11;13:213.

21	新田 吉陽	消化器外科	Diminished expression of MiR-15a is an independent prognostic marker for breast cancer cases.	Anticancer Res. 2015 Jan;35(1):123-7.
22	新田 吉陽	消化器外科	miR-29b is an indicator of prognosis in breast cancer patients.	Mol Clin Oncol. 2015 Jul;3(4):919-923.
23	平松 有	神経内科	Toxocara canis myelitis involving the lumbosacral region: a case report.	J Spinal Cord Med. 2015 Dec 17:1-15.
24	野妻 智嗣	神経内科	Clinical and Electron Microscopic Findings in Two Patients with Mitochondrial Myopathy Associated with Episodic Hyper-creatine Kinase-emia.	Intern Med. 2015;54(24):3209-14.
25	崎山 佑介	神経内科	New type of encephalomyelitis responsive to trimethoprim/sulfamethoxazole treatment in Japan.	Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm. 2015 Aug 13;2(5):e143.
26	羽生 未佳	脳神経外科	Pituitary metastases: current practice in Japan.	J Neurosurg. 2015 Oct;123(4):998-1007.
27	藤尾 信吾	脳神経外科	A Novel Bilateral Approach for Suprasellar Arachnoid Cysts: A Case Report.	Pediatr Neurosurg. 2016;51(1):30-4.
28	花谷 亮典	脳神経外科	The New Antiepileptic Drugs: Their Neuropharmacology and Clinical Indications.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2016 May 15;56(5):205-20.
29	山畑 仁志	脳神経外科	Exploitation of Simple Classification and Space Created by the Tumor for the Treatment of Foramen Magnum Meningiomas.	World Neurosurg. 2016 Mar;87:1-7.
30	政元 いずみ	臨床技術部	Clinical significance of CD70 expression on T cells in human T-lymphotropic virus type-1 carriers and adult T cell leukemia/ lymphoma patients.	Leuk Lymphoma. 2016;57(3):685-91.

31	上野 健太郎	小児科	Circulating platelet-neutrophil aggregates play a significant role in Kawasaki disease.	Circ J. 2015;79(6):1349-56.
32	西川 拓朗	小児科	Mechanisms of Fatal Cardiotoxicity following High-Dose Cyclophosphamide Therapy and a Method for Its Prevention.	PLoS One. 2015 Jun 26;10(6):e0131394.
33	山崎 雄一	小児科	Prediction of long-term remission of oligo/polyarticular juvenile idiopathic arthritis with S100A12 and vascular endothelial growth factor.	Mod Rheumatol. 2016 Jul;26(4):551-6.
34	岡本 康裕	小児科	Effective VCR/DEX pulse maintenance therapy in the KYCCSG ALL-02 protocol for pediatric acute lymphoblastic leukemia.	Int J Hematol. 2016 Feb;103(2):202-9.
35	児玉 祐一	小児科	Central venous catheter-related blood stream infection with pyomyositis due to Stenotrophomonas maltophilia after allogeneic bone marrow transplantation in a patient with aplastic anemia.	Pediatr Transplant. 2016 Mar;20(2):329-32.
36	家入 里志	小児外科	The effect of forceps manipulation for expert pediatric surgeons using an endoscopic pseudo-viewpoint alternating system: the phenomenon of economical slow and fast performance in endoscopic surgery.	Pediatr Surg Int. 2015 Oct;31(10):971-6.
37	家入 里志	小児外科	Current clinical features in diagnosis and treatment for immaturity of ganglia in Japan: analysis from 10-year nationwide survey.	Pediatr Surg Int. 2015 Oct;31(10):949-54.
38	中目 和彦	小児外科	The protective and anti-inflammatory effects of glucagon-like peptide-2 in an experimental rat model of necrotizing enterocolitis.	Peptides. 2016 Jan;75:1-7.
39	戸上 真一	産科、婦人科	A very rare case of endometriosis presenting with massive hemoperitoneum.	J Minim Invasive Gynecol. 2015 May-Jun;22(4):691-3.
40	戸上 真一	産科、婦人科	Is It Possible to Perform Less Radical Surgery for Invasive Uterine Cervical Cancer?	Gynecol Obstet Invest. 2016;81(3):251-5.

41	嶋田 博文	整形外科・リウマチ外科	Evaluation of prognostic scoring systems for bone metastases using single-center data.	Mol Clin Oncol. 2015 Nov;3(6):1361-1370.
42	永野 聡	整形外科・リウマチ外科	Giant cell tumor of the clavicle: report of a case in a rare location with consideration of surgical method.	BMC Musculoskelet Disord. 2015 Jun 12;16:142.
43	永野 聡	整形外科・リウマチ外科	Doppler ultrasound for diagnosis of soft tissue sarcoma: efficacy of ultrasound-based screening score.	Radiol Oncol. 2015 Mar 25;49(2):135-40.
44	横内 雅博	整形外科・リウマチ外科	Giant Cell Tumor of the Distal Phalanx of the Fourth Toe: A Case Report.	J Foot Ankle Surg. 2016 Mar-Apr;55(2):306-9.
45	有村 亜希子	皮膚科	Granulocyte and monocyte adsorption apheresis for paradoxical reaction to infliximab.	J Dermatol. 2015 Apr;42(4):438-9.
46	藤井 一恭	皮膚科	Versican upregulation in Sézary cells alters growth, motility and resistance to chemotherapy.	Leukemia. 2015 Oct;29(10):2024-32.
47	多田 浩一	皮膚科	Bilateral diffuse uveal melanocytic proliferation with mucocutaneous pigmentation.	J Dermatol. 2015 Dec;42(12):1183-5.
48	東 裕子	皮膚科	Elevation of serum KL-6 in patients with psoriasis treated with anti-tumour necrosis factor- $\alpha$ therapy.	Clin Exp Dermatol. 2016 Jan;41(1):88-90.
49	坂ノ上 正直	皮膚科	Skin eruption elicited by magnesium oxide (Maglax®).	J Dermatol. 2016 Feb;43(2):221-2.
50	園田 祥三	眼科	Luminal and stromal areas of choroid determined by binarization method of optical coherence tomographic images.	Am J Ophthalmol. 2015 Jun;159(6):1123-1131.e1.

51	山下 高明	眼科	Circumpapillary course of retinal pigment epithelium can be fit to sine wave and amplitude of sine wave is significantly correlated with ovality ratio of optic disc.	PLoS One. 2015 Apr 7;10(4):e0122191.
52	芳原 直也	眼科	Wider retinal artery trajectories in eyes with macular hole than in fellow eyes of patients with unilateral idiopathic macular hole.	PLoS One. 2015 Apr 13;10(4):e0122876.
53	椎原 秀樹	眼科	AMOUNT OF RESIDUAL SILICONE OIL IN VITREOUS CAVITY IS SIGNIFICANTLY CORRELATED WITH AXIAL LENGTH.	Retina. 2016 Jan;38(1):181-7.
54	寺崎 寛人	眼科	Non-rhegmatogenous retinal detachment associated with hair-like object in vitreous: a case report.	Clin Exp Optom. 2015 Jul;98(4):379-80.
55	山切 啓太	眼科	Department of Ophthalmology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2016 Jun;254(6):1069-73.
56	山下 高明	眼科	Relationship Between Location of Retinal Nerve Fiber Layer Defect and Curvature of Retinal Artery Trajectory in Eyes With Normal Tension Glaucoma.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2015 Sep 1;56(10):6190-5.
57	山下 高明	眼科	Association of retinal thickness and optic disc-to-fovea angle to axial length of young healthy eyes.	Clin Ophthalmol. 2015 Nov 27;9:2235-41.
58	川野 浩輝	眼科	Relative changes in luminal and stromal areas of choroid determined by binarization of EDI-OCT images in eyes with Vogt-Koyanagi-Harada disease after treatment.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2016 Mar;254(3):421-6.
59	中條 正豊	放射線科	Diagnostic performances of FDG-PET/CT and diffusion-weighted imaging indices for differentiating benign pheochromocytoma from other benign adrenal tumors.	Abdom Imaging. 2015 Aug;40(6):1655-65.
60	内匠 浩二	放射線科	Pancreatic neuroendocrine tumors: Correlation between the contrast-enhanced computed tomography features and the pathological tumor grade.	Eur J Radiol. 2015 Aug;84(8):1436-43.

61	中條 正豊	放射線科	The value of intratumoral heterogeneity of (18)F-FDG uptake to differentiate between primary benign and malignant musculoskeletal tumours on PET/CT.	Br J Radiol. 2015;88(1055):20150552
62	中條 正豊	放射線科	FDG-PET/CT and FLT-PET/CT for differentiating between lipid-poor benign and malignant adrenal tumours.	Eur Radiol. 2015 Dec;25(12):3696-705.
63	福倉 良彦	放射線部	Computed tomography and magnetic resonance imaging features of lipid-rich neuroendocrine tumors of the pancreas.	World J Gastroenterol. 2015 Sep 14;21(34):10008-17.
64	神宮司 メグミ	放射線部	A Case of Intraductal Papilloma of the Breast With High 18F-FDG Uptake on PET/CT.	Clin Nucl Med. 2015 Nov;40(11):905-7.
65	中條 正豊	放射線科	Dexamethasone Suppression FDG PET/CT for Differentiating between True- and False-Positive Pulmonary and Mediastinal Lymph Node Metastases in Non-Small Cell Lung Cancer: A Pilot Study of FDG PET/CT after Oral Administration of Dexamethasone.	Radiology. 2016 Apr;279(1):246-53.
66	森山 孝宏	麻酔科	Effective method of continuous rocuronium administration based on effect-site concentrations using a pharmacokinetic/pharmacodynamic model during propofol-remifentanyl anesthesia.	J Anesth. 2015 Aug;29(4):593-9.
67	森山 孝宏	麻酔科	Atrial natriuretic peptide attenuation of renal ischemia-reperfusion injury after major surgery.	J Surg Res. 2016 Mar;201(1):213-8.
68	大野 幸	全身管理歯科治療部	Associations between blood pressure responses to acute stress and impaired renal function and serum uric acid level.	Clin Exp Hypertens. 2015;37(8):656-60.
69	衛藤 誠二	リハビリテーション科	Effects of repetitive facilitative exercise with neuromuscular electrical stimulation, vibratory stimulation and repetitive transcranial magnetic stimulation of the hemiplegic hand in chronic stroke patients.	Int J Neurosci. 2015 Oct 16:1-6.
70	五月女 さき子	口腔保健科	Development and validation of the locus of control scale for oral health behavior	J Dent Hlth 65: 339-347, 2015

71	宮脇 正一	矯正歯科	Development of a novel spike-like auxiliary skeletal anchorage device to enhance miniscrew stability.	Am J Orthod Dentofacial Orthop. 2015 Aug;148(2):338-44.
72	前田 綾	矯正歯科	Induction of CXCL2 and CCL2 by pressure force requires IL-1 $\beta$ -MyD88 axis in osteoblasts.	Bone. 2015 May;74:76-82.
73	友成 博	矯正歯科	Replacement of a first molar and 3 second molars by the mesial inclination of 4 impacted third molars in an adult with a Class II Division 1 malocclusion.	Am J Orthod Dentofacial Orthop. 2015 Jun;147(6):755-65.
74	稲田 絵美	小児歯科	PiggyBac transposon-mediated gene delivery efficiently generates stable transfectants derived from cultured primary human deciduous tooth dental pulp cells (HDDPCs) and HDDPC-derived iPS cells.	Int J Oral Sci. 2015 Sep 14;7(3):144-54.
75	稲田 絵美	小児歯科	Quantitative evaluation of toothbrush and arm-joint motion during tooth brushing.	Clin Oral Investig. 2015 Jul;19(6):1451-62.
76	森園 健	小児歯科	Simultaneous evaluation of three-dimensional lip kinetics and tongue pressure during swallowing.	International Journal of Dentistry and Oral Health 2016; 2:2
77	徳田 雅行	保存科	Involvement of TRPV1 and AQP2 in hypertonic stress by xylitol in odontoblast cells.	Connect Tissue Res. 2015 Feb;56(1):44-9.
78	徳田 雅行	保存科	Dentin and pulp sense cold stimulus.	Med Hypotheses. 2015 May;84(5):442-4.
79	森元 陽子	保存科	A natural therapeutic approach for the treatment of periodontitis by MK615.	Med Hypotheses. 2015 Nov;85(5):618-21.
80	嶺崎 良人	冠・ブリッジ科	Effect of metal conditioner on bonding of porcelain to cobalt-chromium alloy.	J Adv Prosthodont. 2016 Feb;8(1):1-8.



81	村上 格	義歯補綴科	Dry mouth and denture plaque microflora in complete denture and palatal obturator prosthesis wearers.	Gerodontology. 2015 Sep;32(3):188-94.
82	村上 格	義歯補綴科	Impact of Types of Moisturizer and Humidity on the Residual Weight and Viscosity of Liquid and Gel Oral Moisturizers.	J Prosthodont. 2015 Sep 16.
83	村上 格	義歯補綴科	Impact of Type and Duration of Application of Commercially Available Oral Moisturizers on Their Antifungal Effects.	J Prosthodont. 2016 Feb 24.
84	村上 格	義歯補綴科	Fabrication of a movable obturator following maxillary reconstruction with slit-shaped fenestration.	J Prosthodont. 2015 Apr;24(3):254-9.
85	山口 孝二郎	口腔外科	Traditional Japanese herbal medicines for treatment of odontopathy.	Front Pharmacol. 2015 Aug 28;6:176.
86	上川 善昭	口腔外科	Use of Candida-specific chicken egg yolk antibodies to inhibit the adhering of Candida to denture base materials: prevention of denture stomatitis.	Gerodontology. 2016 Sep;33(3):342-7.
87	比地岡 浩志	口腔顎顔面外科	Primary intraosseous squamous cell carcinoma arising from ameloblastoma of the mandible.: A case report.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology Volume 27, Issue 5, September 2015, Pages 693-697
88	安田 智嗣	集中治療部	Non-invasive Monitoring of Hepatic Oxygenation Using Time-Resolved Spectroscopy.	Adv Exp Med Biol. 2016;876:407-12.
89	垣花 泰之	救命救急センター	Sepsis-induced myocardial dysfunction: pathophysiology and management.	J Intensive Care. 2016 Mar 23;4:22.
90	伊藤 隆史	救命救急センター	Thrombomodulin as an intravascular safeguard against inflammatory and thrombotic diseases.	Expert Opin Ther Targets. 2016;20(2):151-8.

小計 10

91	吉村 卓也	病理部	PCP4/PEP19 promotes migration, invasion and adhesion in human breast cancer MCF-7 and T47D cells.	Oncotarget. 2016 Feb 20.
92	平木 翼	病理部	The First Case of Pulmonary Alveolar Proteinosis With Small Cell Lung Carcinoma.	Int J Surg Pathol. 2016 Apr;24(2):135-8.
93	川村 英樹	医療環境安全部	A bundle that includes active surveillance, contact precaution for carriers, and cefazolin-based antimicrobial prophylaxis prevents methicillin-resistant Staphylococcus aureus infections in clean orthopedic surgery.	Am J Infect Control. 2016 Feb;44(2):210-4.
94	川村 英樹	医療環境安全部	Epidemiological Analysis of Nosocomial MRSA Outbreaks Using Phage Open-Reading Frame Typing in a Tertiary-care Hospital.	Jpn J Infect Dis. 2016 Jan 8.
95	長谷場 純仁	臨床技術部	Combined effects of repeated sauna therapy and exercise training on cardiac function and physical activity in patients with chronic heart failure.	Disabil Rehabil. 2016;38(5):409-15.

小計 5

計 95

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	北菌 巖	消化器外科	腹腔鏡下虫垂切除術に対する虫垂断端処理の検討	外科. 77巻7号:817-821, 2015
2	出口 央晋	腎臓内科	顕微鏡的多発血管炎による急速進行型腎炎症候群の加療中に発症した非外傷性腹直筋血腫の1例	透析会誌
3	石神 純也	消化器外科	手術手技 胃全摘後のY脚パウチ法再建	手術
4	有上 貴明	消化器外科	Navigation Surgery	消化器外科学レビュー-最新主要文献と解説
5	有上 貴明	消化器外科	こだわりの再建法 胃全摘術後の再建の基本—Roux-en-Yか空腸間置か,	臨床外科
6	有上 貴明	消化器外科	術後合併症と予後との関連—炎症による局所抗腫瘍免疫系の変化—	SURGERY FRONTIER
7	内門 泰斗	医療環境安全部	特集 食道手術 合併症対処の各施設の工夫. 術中・術後合併症の予防と対処 反回神経麻痺 当施設の工夫.	手術
8	内門 泰斗	医療環境安全部	リンパ節郭清up to date 特集 食道癌.	消化器外科
9	平田 宗嗣	乳腺・甲状腺外科	男性に発生した嚢胞内非浸潤性乳管癌の1例	外科
10	憲 浩一	消化器外科	術前化学放射線治療後にサイトメガロウイルス 感染症を発症した食道癌の1例	癌と化学療法
11	憲 浩一	消化器外科	腹腔鏡手術が診断に有効であった大網裂孔ヘルニアの1例	日本腹部救急医学会雑誌
12	天辰 仁彦	消化器外科	化学療法により重症敗血症を起こした食道・胃同時性重複癌の1例	癌と化学療法
13	鶴田 祐介	消化器外科	S-1+CDDP併用化学放射線治療が有効であった統合失調症合併進行食道癌の1例	癌と化学療法
14	野元 優貴	消化器外科	硬癌との鑑別が困難であった閉経後乳腺-231-radial scarの1例.	手術
15	野元 優貴	消化器外科	同時性両側性乳腺粘液 癌の1例	乳癌の臨床
16	藤尾 信吾	脳神経外科	長期的予後を視野に入れた脊索腫・軟骨肉腫に対する多角的治療戦略-現時点における最良の治療選択-	脳神経外科速報
17	平野 宏文	脳神経外科	術中MRI -有用性の検証	脳神経外科速報
18	有田 和徳	脳神経外科	第3回下垂体スキルアップカンファレンス 特別講演:下垂体インシデンタローマについて	Pharma Medica
19	佐藤 雅美	呼吸器外科	肺がん検診における喀痰細胞診の診断一致性と標準化	肺癌
20	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	糖尿病の検査・診断の臨床的意義	新時代の臨床糖尿病学(上)74巻 増刊号 P366-369(2016.2)

21	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	幼児および青少年における心臓代謝疾患リスクと肥満度の関連	Angiology Frontier 14巻 3号 P64-65(2015.12)
22	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	心疾患	日本臨牀 73巻 12号 P2053-2058(2015.12)
23	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	2型糖尿病における血糖コントロールと心血管イベント発症の追跡研究	Angiology Frontier 14巻 2号 P72-73 (2015.8)
24	西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	血管内皮機能障害	最新医学 70巻 7号 P70-7(2015.7)
25	出口 尚寿	糖尿病・内分泌内科	糖尿病性神経障害を巡る最新の話題～基礎から臨床まで～有痛性糖尿病性神経障害の病態と治療	Diabetes Frontier 26巻 4号 P466-471(2015.8)
26	出口 尚寿	糖尿病・内分泌内科	糖尿病足病変の下肢疼痛に対する薬物治療	内分泌・糖尿病・代謝内科 41巻 2号 P164-170(2005.8)
27	出口 尚寿	糖尿病・内分泌内科	糖尿病治療薬Update—適正使用に向けて 神経障害治療薬の使い方	medicina 53巻 1号 P126-129 (2016.1)
28	出口 尚寿	糖尿病・内分泌内科	内分泌疾患にみられる筋障害(疾患)糖尿病性筋萎縮症	別冊日本臨牀 新領域 別症候群シリーズNo.33 骨格筋症候群(第2版) P366-370(2015.7)
29	児玉 祐一	小児科	難治性固形腫瘍に対するイリノテカン・テモゾロミド併用療法 2015;52(5):405-408	日本小児血液・がん学 会雑誌
30	家入 里志	小児外科	【へそを使う手術の実際】横隔膜ヘルニア	小児外科 48巻3号 pp294-298 2016.3
31	山田 耕嗣	小児外科	【小児救急セミナーシリーズ:外因性疾患への初期対応】酸アルカリ誤飲	小児外科 48巻2号 Page207-211 2016.2
32	家入 里志	小児外科	ロボット手術リレー連載(第6回) ロボット支援手術のトレーニング	日本コンピュータ外科学 会誌 17巻2号 Page67-71 2015.8
33	家入 里志	小児外科	【素朴な疑問:私ならこう考える】Hirschsprung病の直腸粘膜生検、いつから可能か	小児外科 47巻10号 Page1034-1036 2015.10
34	山田 和歌	総合臨床研修センター	【素朴な疑問:私ならこう考える】症状のない腸回転異常症、手術は必要か	小児外科 47巻10号 Page1031-1033 2015.10
35	家入 里志	小児外科	ロボット手術リレー連載(第5回) 小児外科領域	日本コンピュータ外科学 会誌 17巻1号 Page5-9 2015.04
36	家入 里志	小児外科	【腸をもっと知る】Immaturity of ganglia 全国アンケート調査からみた臨床像と今後の診断方法の展望	小児外科 47巻4号 Page377-381 2015.04
37	川野 孝文	小児外科	腫瘍形成性虫垂炎に対する待機的虫垂切除 第41回九州小児外科研究会アンケート調査より	日本小児外科学会雑誌 51巻4号pp793-798 2015.06
38	小林 裕明	産科、婦人科	子宮がん,卵巣がん縮小手術に関する最近の話題	日本癌治療学会誌 50 巻2号 355-357,2015年
39	戸上 真一	産科、婦人科	血管新生阻害薬の現況と今後の展開	癌と化学療法 43巻2号 176-181, 2016年
40	岩元 一朗	産科、婦人科	分娩後汎下垂体機能低下症を呈しリンパ球性汎下垂体炎が疑われた症例	鹿児島産科婦人科学会 24巻 38-41, 2016年

41	中村 俊介	整形外科・リウマチ外科	副長趾屈筋(Flexor digitorum accessorius longus muscle)によって足関節内側後方の疼痛を生じた1例	日本足の外科学会雑誌
42	吉村 寿彦	眼科	水晶体融解緑内障を前房穿刺で治療した1例	臨床眼科, 69・4, 575-578, 2015.
43	川野 純廣	眼科	細隙灯顕微鏡写真を得るためのスマートフォンアタッチメントの作製.	臨床眼科, 69・4, 657-662, 2016
44	永野 広海	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	セツキシマブ治療におけるインフュージョン・リアクション軽減の試み	口腔・咽喉科, 28(2):183-186, 2015
45	牧瀬 高穂	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	高齢者の舌部分切除術におけるPGAシートの有用性	耳鼻咽喉科臨床, 108(9):709-712, 2015
46	永野 広海	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	頭頸部癌に対するセツキシマブ併用放射線療法における急性有害事象. 放射線単独および他の化学放射線療法との比較検討	耳鼻咽喉科臨床, 108(12):945-950, 2015
47	黒野 祐一	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	扁桃周囲膿瘍におけるガレノキサシンの組織移行性に関する検討	日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会誌, 4(2):102-106, 2016
48	楢山 加綱	歯科麻酔科	鹿児島大学病院歯科診療棟における20年間の院内救急コール症例の検討.	日本歯科麻酔学会雑誌
49	是枝 清孝	全身管理歯科治療部	ラセン入り気管チューブのカフルーメン狭窄を起こした1症例	日本歯科麻酔学会雑誌
50	楢山 加綱	歯科麻酔科	鹿児島大学病院歯科診療棟における20年間の異物誤嚥誤飲症例の検討.	日本歯科麻酔学会雑誌
51	植田 紘貴	矯正歯科	歯科矯正用アンカースクリューを併用して非抜歯治療を行った骨格性Ⅱ級ハイアングル症例の一治験例	九州矯正歯科雑誌, 11(1): 10-16, 2016.
52	稲田 絵美	小児歯科	血友病Aを有する脳性麻痺患者に対し歯周病原細菌の推移を考慮して歯周病管理を行った1例.	障害者歯科 36(1): 25-32, 2015
53	佐藤 秀夫	小児歯科	地域保健センターにおける乳幼児期の口腔機能発達支援の取り組み	小児保健かごしま, 28:49-52, 2015.
54	西 恭宏	義歯補綴科	クリニカル シリーズ 身近な臨床・これからの歯科医のための臨床講座73 全部床義歯の快適な使用のための経過観察時の検査と調整の要点	日本歯科医師会雑誌
55	濱田 倫史	口腔外科	口腔扁平上皮癌におけるMUC4ムチンの発現とその意義	口腔組織培養学会誌
56	杉浦 剛	口腔外科	テトラスパニンCD82/KAI1による癌転移抑制機	口腔組織培養学会誌
57	山口 孝二郎	口腔外科	高齢者の口腔顔面痛に対する漢方療法について	痛みと漢方
58	山口 孝二郎	口腔外科	歯科口腔外科領域における漢方治療のエビデンス.	日本歯科薬物療法学会誌
59	平松 有	神経内科	抗菌薬投与中にもかかわらず、創部に遺残した異物からClostridium tetaniが分離された破傷風の1例	日本集中治療医学会雑誌
60	伊藤 隆史	救命救急センター	敗血症性disseminated intravascular coagulation(DIC)におけるヒストンのnet effect	日本集中治療医学会雑誌

61	垣花 泰之	救命救急センター	【sepsis・SIRS-その常識は正しいか?】初期輸液と循環作動薬 初期蘇生はearly goal-directed therapy で行う	救急・集中治療
62	垣花 泰之	救命救急センター	【病態ごとの輸液管理-その常識は正しいか?】敗血症ショックの輸液管理 その常識は正しいか?	救急・集中治療
63	垣花 泰之	救命救急センター	【重症病態の栄養治療-最新の知識とその実践-】病態別栄養治療 急性肝不全の栄養治療	救急・集中治療
64	垣花 泰之	救命救急センター	【日本版重症敗血症診療ガイドライン2016作成にむけて】初期蘇生 最近の話題と動向	ICUとCCU
65	垣花 泰之	救命救急センター	【ショック-救命へのアプローチ】ショックのモニタリング ベッドサイドにおける適正指標とは?	救急医学
66	伊藤 隆史	救命救急センター	【ダイナミックに変わりつつあるDICの診断・治療】敗血症DICの病態 敗血症性DICの発症機序 PAMPs、DAMPs、NETsの役割	血栓と循環
67	西田 ゆかり	臨床技術部	分泌性髄膜腫の1例-圧挫標本の細胞像について-	日本臨床細胞学会雑誌 Vol. 54 (2015) No. 1 p. 69-70
68	窪田 恵美	臨床技術部	右側胸壁に発生した明細胞肉腫の1例	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌(2016) Vol47: p69~72
69	武田 泰生	薬剤部	Incretin as a Novel Treatment Strategy for NAFLD/NASH	Yakugaku Zasshi.
70	竹之下 友寿	臨床技術部	MLL関連ALLにおけるNEURAL-GLIAL ANTIGEN 2(NG2)抗原使用の有用性について	Cytometry Research 25 21-26.2015
71	水上 尚子	臨床技術部	肺塞栓症(心エコーおよび下肢静脈検査と血液凝固検査)	臨床病理 957-963.2015
72	西 倫史	臨床技術部	ロボットスーツHALを用いた片麻痺歩行に対する歩行指導の効果 -慢性期脳卒中の1例-	鹿児島リハビリテーション医学研究会会誌 26 (1): 37-40, 2015
73	野島 文史	臨床技術部	当院における集中治療病棟(ICU)への理学療法士専従配置の取り組みとその効果	鹿児島リハビリテーション医学研究会会誌 26(1): 9-13, 2015
74	福重 雅美	臨床技術部	矯正治療中の口唇顎裂もしくは口唇口蓋裂を伴う患者の保護者における心理状態と関心事	日本口蓋裂学会 第40巻第1号 13-22 2015

小計 14

計 74

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 研究計画立案後の審査承認までの流れについて	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の目的・定義、委員会の設置、指導、情報開示等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 16 回
・ 研修の主な内容 臨床研究と倫理、大学院生とともに考えるラボの倫理のスタンダード、当院におけるモニタリング・監査への対応、臨床研究実施計画書申請の留意点、本学発ウイルス医薬の医師主導治験の紹介、改正薬事法と再生医療等安全性確保法の現状と対応、COIの書き方と意味、臨床試験デザイン、臨床研究で押さえておきたい統計のポイント、当院の治験実施状況の紹介と治験実施の流れ（GCP含む）、臨床試験の信頼性確保。 なお、研修会当日に参加できなかった職員のために、録画DVDの上映による研修会を実施している。	





(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師として共通に求められている基礎的知識、技術、マナー等の修得を目指したいわゆる初期臨床研修（2年間）を終了した医師は、その後も引き続き研修を行うことになるが、（各診療科により異なるが通算して概ね5～6年の研修期間）その間、各科の指導医のもと入院患者及び外来患者の診療に従事するとともに、症例検討会、抄読会並びに種々のカンファレンス等に参加することにより一層の研鑽を行うことはもとより、地域のメディカルセンターとしてより先端的な医療の開発、研究を行っているとともに、それぞれの専門的な高度の知識と技術の修得に努めている。

また、それぞれの科の標榜するための条件となると思われる各科関連学会の定める専門医、認定医の資格取得のための指導体制も十分に整っている。

その他、日進月歩の医学の世界において医師の生涯学習の観点から、地域の病院との連携を促進し地域医療の発展に寄与することを目的とした「研修登録医」制度を設け、本学医学部附属病院において病棟回診、症例検討会その他の研究会並びに患者の診療等に参加することを通じて、先端的な知識や技術を修得するために1年間の研修を行っている。

2 研修の実績

研修医の人数	183 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

### 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大石 充	心臓血管内科	部門科長	27年	
井戸 章雄	消化器内科	部門科長	33年	
高嶋 博	神経内科	部門科長	26年	
石塚 賢治	血液・膠原病内科	部門科長	29年	
井上 博雅	呼吸器内科	部門科長	31年	
西尾 善彦	糖尿病・内分泌内科	部門科長	31年	
乾 明夫	心身医療科	部門科長	39年	
吉浦 敬	放射線科	部門科長	27年	
下堂 蘭 恵	リハビリテーション科	部門科長	27年	
金蔵 拓郎	皮膚科	部門科長	33年	
夏越 祥次	消化器外科	部門科長	35年	
井本 浩	心臓血管外科	部門科長	36年	
佐藤 雅美	呼吸器外科	部門科長	34年	
有田 和徳	脳神経外科	部門科長	36年	
中川 昌之	泌尿器科	部門科長	35年	
小宮 節郎	整形外科・リウマチ外科	部門科長	38年	
坂本 泰二	眼科	部門科長	31年	
黒野 祐一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	部門科長	36年	
家入 里志	小児外科	部門科長	20年	
佐野 輝	神経科精神科	部門科長	36年	
河野 嘉文	小児科	部門科長	35年	
小林 裕明	産科、婦人科	部門科長	31年	
上村 裕一	麻酔科	部門科長	36年	
杉村 光隆	歯科麻酔科	部門科長	30年	
宮脇 正一	矯正歯科	部門科長	28年	
於保 孝彦	口腔保健科	部門科長	33年	
西谷 佳浩	保存科	部門科長	20年	
西村 正宏	義歯補綴科	部門科長	22年	
杉浦 剛	口腔外科	部門科長	25年	
橋口 照人	検査部	部長	31年	
垣花 泰之	集中治療部	部長	31年	
古川 良尚	輸血・細胞治療部	部長	33年	
谷本 昭英	病理部	部長	28年	
田口 則宏	歯科総合診療部	部長	22年	
西 順一郎	感染制御部門	部門長	27年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- 1) ・研修の主な内容 腎移植に関する研修  
・研修の期間・実施回数 年2回  
・研修の参加人数 15
- 2) ・研修の主な内容 泌尿器癌看護のマネージメント  
・研修の期間・実施回数 年1回  
・研修の参加人数 15
- 3) ・研修の主な内容 鹿児島大学糖尿病看護師研修  
・研修の期間・実施回数 2015年12月24日・1回  
・研修の参加人数 60
- 4) ・研修の主な内容 CT, MRI検査に関する医療講習会  
・研修の期間・実施回数 2015年9月16日・1回  
・研修の参加人数 93
- 5) ・研修の主な内容 鹿児島大学病院歯科インプラント研修会  
・研修の期間・実施回数 2015年4月22日～2016年3月2日・12回  
・研修の参加人数 64
- 6) ・研修の主な内容 HIV在宅医療・介護の環境整備事業  
・研修の期間・実施回数 2015年9月9日・1回  
・研修の参加人数 10
- 7) ・研修の主な内容 細胞検査士養成講習会  
・研修の期間・実施回数 2015年4月～11月・9回  
・研修の参加人数 各20

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- 1) ・研修の主な内容 新規放射線取扱者教育訓練  
・研修の期間・実施回数 2015年5月13日～14日、6月18日～19日・2回  
・研修の参加人数 200
- 2) ・研修の主な内容 放射線取扱者再教育訓練  
・研修の期間・実施回数 2015年7月24日・1回  
・研修の参加人数 100
- 3) ・研修の主な内容 補綴科合同連絡会  
・研修の期間・実施回数 2015年4月16日～2016年3月10日・11回  
・研修の参加人数 100

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- 1) ・研修の主な内容 スピリチュアルケア研修会A（宮崎市）  
・研修の期間・実施回数 2015年4月17日-5月29日・3回  
・研修の参加人数 8
- 2) ・研修の主な内容 スピリチュアルケア研修会A（川内市）  
・研修の期間・実施回数 2015年8月29日-9月26日・3回  
・研修の参加人数 6
- 3) ・研修の主な内容 がんエキスパート研修  
・研修の期間・実施回数 2015年8月11日・1回  
・研修の参加人数 150

- 4) ・研修の主な内容 大隅半島の緩和ケアを中心としたがん看護従事者研修  
・研修の期間・実施回数 2015年7月14日・1回  
・研修の参加人数 30
- 5) ・研修の主な内容 佐賀県伊西地区緩和ケア合同研修会  
・研修の期間・実施回数 2015年6月25日・1回  
・研修の参加人数 250
- 6) ・研修の主な内容 スピリチュアルケア研修会A' (鹿児島)  
・研修の期間・実施回数 2015年6月7日・1回  
・研修の参加人数 3
- 7) ・研修の主な内容 スピリチュアルケア研修会A' (佐賀)  
・研修の期間・実施回数 2015年11月1日・1回  
・研修の参加人数 3
- 8) ・研修の主な内容 スピリチュアルケアセミナーA (佐賀唐津市)  
・研修の期間・実施回数 2015年10月31日・1回  
・研修の参加人数 40
- 9) ・研修の主な内容 スピリチュアルケアセミナーA (川内市医師会立市民病院)  
・研修の期間・実施回数 2015年6月6日・1回  
・研修の参加人数 50
- 10) ・研修の主な内容 スピリチュアルケアセミナーA (済生会川内病院)  
・研修の期間・実施回数 2015年7月18日・1回  
・研修の参加人数 30
- 11) ・研修の主な内容 医師会薬物療法研修会  
・研修の期間・実施回数 2015年7月21日・1回  
・研修の参加人数 50

- 12) ・研修の主な内容 第2回シュミレーション実習講習会
  - ・研修の期間・実施回数 2015年8月22日・1回
  - ・研修の参加人数 50
- 13) ・研修の主な内容 歯科医院で行う口腔癌早期発見
  - ・研修の期間・実施回数 2015年9月12日～2015年10月4日・2回
  - ・研修の参加人数 100
- 14) ・研修の主な内容 糖尿病と歯科治療
  - ・研修の期間・実施回数 2015年10月31日・2回
  - ・研修の参加人数 300

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 熊本 一朗
管理担当者氏名	各診療センター部門科長 医療情報部長(宇都由美子) 薬剤部長(武田泰生) 看護部長(向窪世知子) 臨床技術部長(弓場裕之) 総務課長(島森俊光) 医務課長(馬場園誠)

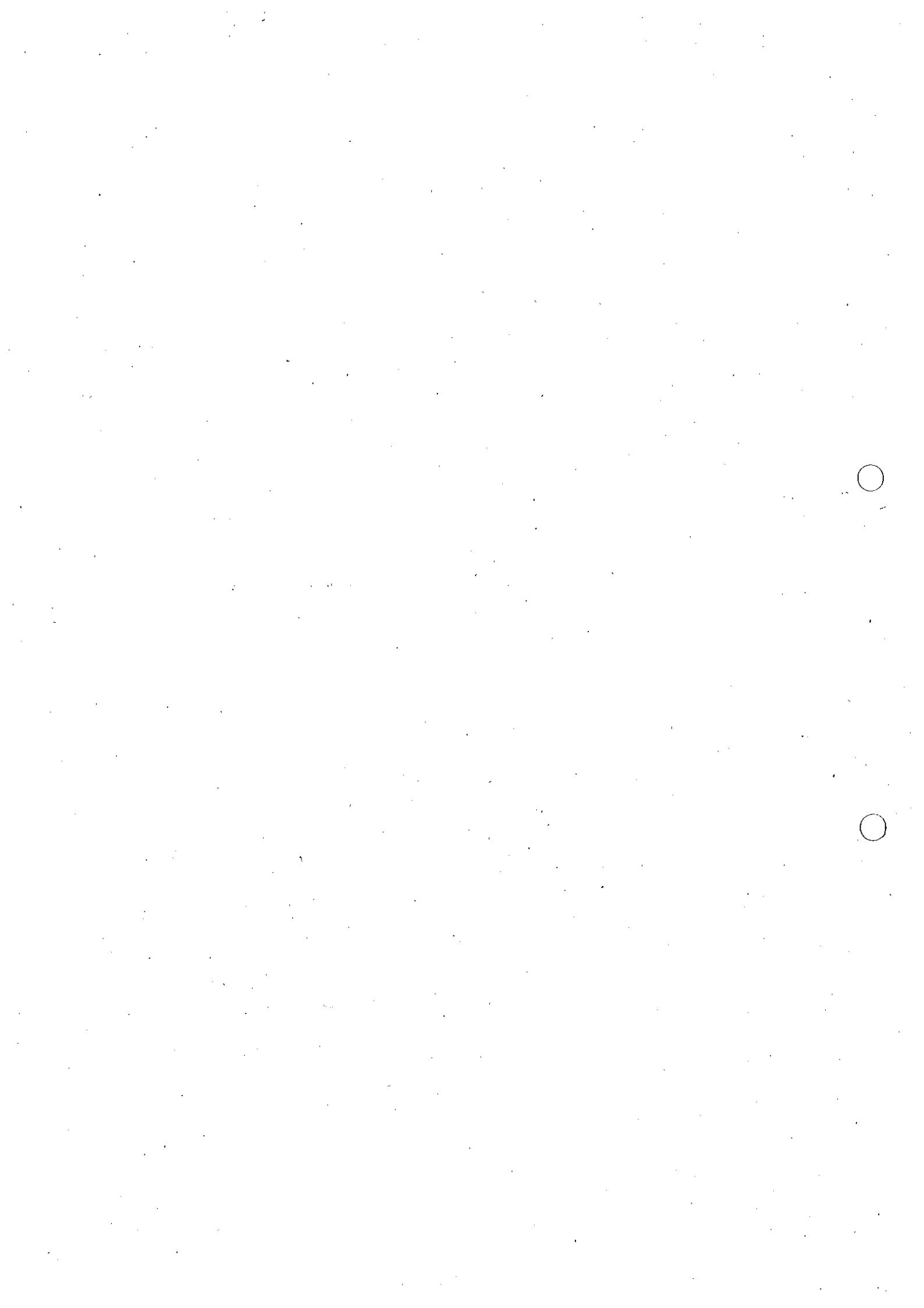
		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる	病院日誌	総務課		
		各科診療日誌	各診療センター部門科		
		処方せん	薬剤部		
		手術記録	診療情報管理室		
		看護記録	看護部		
		検査所見記録	診療情報管理室		
		エックス線写真	放射線部		
		紹介状	診療情報管理室		
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療情報管理室	(1) 患者に関する記録 患者ID番号(1患者=1記録)により管理している。 (2) エックス線フィルム 平成25年度から手術室撮影画像をデジタル化し、フィルムレスで管理している。CT、MRI、RI、一般撮影、透視・血管撮影、乳房撮影等は、デジタル画像として院内サーバーにて保存・管理している。 過去のエックス線フィルムは各部門科で保存している。部門科によってはデジタルライザーによるデジタル化を行い、保存・管理している。		
病院の管理及び運営に関する諸記録	掲げる事項	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医務課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課		
		高度の医療の研修の実績	総務課		
		閲覧実績	総務課		
		紹介患者に対する医療提供の実績	医務課		
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務課 薬剤部			
	掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医務課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医務課		
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医務課		
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医務課			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医務課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床技術部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床技術部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床技術部



		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	計画書の提出あり
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	計画書の提出あり
		監査委員会の設置状況	計画書の提出あり
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医務課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	計画書の提出あり
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医務課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	計画書の提出あり
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	計画書の提出あり		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。



(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	<input checked="" type="radio"/> 2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 熊本 一郎		
閲覧担当者氏名	総務課長 島森 俊光		
閲覧の求めに応じる場所	総務課		
閲覧の手続の概要			
閲覧場所を設置しており、要求があった場合には対応ができる状況である。			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 趣旨</li><li>(2) 安全管理に関する基本的考え方</li><li>(3) 組織に関する基本的事項</li><li>(4) 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針</li><li>(5) 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li><li>(6) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li><li>(7) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li><li>(8) 患者等からの相談への対応に関する基本方針</li><li>(9) その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li></ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 医療の安全管理体制の確保に関する事</li><li>(2) 医療に関する安全管理指針に関する事</li><li>(3) 医療事故等の防止対策の検討及び推進に関する事</li><li>(4) 医療の安全管理のための教育及び研修に関する事</li><li>(5) その他医療の安全管理等に関する事</li></ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 14 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>第1回 医療事故、ヒヤリ・ハット事例の情報収集、分析と無過失補償による紛争の解決について</p> <p>第2回 輸血と医療安全—インシデントを踏まえての注意点—</p> <p>第3回 医療安全・感染対策推進のために</p> <p>第4回 人工呼吸器における加温加湿について・除細動器の基本的な操作方法</p> <p>第5回 深部褥瘡の予防と局所治療の実際</p> <p>第6回 抗がん剤の職業性曝露の危険性、抗がん剤取扱時の注意</p> <p>第7回 第11回CT・MR検査に関する医療安全講習会</p> <p>第8回 RRSシンポジウム —急変を防ぐ！ 気づきから始まるRRS—</p> <p>第9回 麻薬の取扱い・管理について</p> <p>第10回 10月からスタートした医療事故調査制度って、どんな制度？</p> <p>第11回 医療行為と民事訴訟</p> <p>第12回 抗がん剤・免疫抑制剤投与時のHBV再活性化対策</p> <p>第13回 インシデントから学ぶ人工呼吸器管理 除細動器の基礎と使用方法について</p> <p>第14回 医療ガスについて</p> <p>※研修会当日に参加できなかった職員のために、録画DVDの上映による研修会及びe-Learningによる研修を別途実施している。その他に新規採用者・中途採用者向けの研修を実施した。</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 医療環境の変化に対応するため、「医療安全管理マニュアル」を随時改訂</li><li>(2) 医療安全管理強化月間(5月、11月)を設定</li></ol>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>I 趣旨</li><li>II 院内感染対策の基本指針</li><li>III 組織体制</li><li>IV 職員の教育及び研修</li><li>V 報告に関する基本方針</li><li>VI 対応に関する基本方針</li><li>VII その他</li><li>VIII 閲覧</li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>本院における院内感染対策に関する問題の原因分析、改善策を審議し、諸施策等の策定等を行う。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 9 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>第 1 回 廃棄物の分別-感染性・非感染性・一般廃棄物のちがい-</li><li>第 2 回 手指衛生</li><li>第 3 回 医療安全・感染対策推進のために</li><li>第 4 回 結核</li><li>第 5 回 細菌検査と薬剤耐性菌</li><li>第 6 回 アウトブレイク対応</li><li>第 7 回 感染性胃腸炎への対応</li><li>第 8 回 手指消毒の重要性と耐性菌</li><li>第 9 回 冬季流行疾患への対応-インフルエンザ-</li></ul> <p>※研修会当日に参加できなかった職員のために、録画DVDの上映による研修会及びe-Learningによる研修を別途実施している。その他に新規採用者・中途採用者・清掃業者・調理従事者向けの研修を実施した。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 院内感染発生時に部署から ICT に報告</li><li>(2) 注意すべき病原体の検出時に検査部から ICT に報告</li><li>(3) 週 1 回検査部から病棟別主要注意菌検出状況をまとめた感染情報レポートを ICT に提出</li><li>(4) 重大な感染事例の発生時は ICT から病院長に報告</li><li>(5) ICT スタッフ会議、感染症対策委員会において報告</li><li>(6) リスクマネージャー連絡会議を通じて院内に周知</li></ul>	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(平成27年度実績)</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 新規採用者対象 (歯科) : 処方せんの書きについて (4/3)</li><li>2. 新規採用者対象 (医科) : 薬剤の使い方・麻薬の取り扱いについて (4/5)</li><li>3. 研修医対象 : 処方せんの書き方と薬剤部見学 (4/8)</li><li>4. 新規採用看護師 : 安全に知識：薬剤・注射薬の基礎 (5/29)</li><li>5. 全職員対象 : 抗がん剤の職業性曝露の危険性について (8/21)</li><li>6. 全職員対象 : 抗がん剤・免疫抑制剤投与時のHBV再活性化対策 (10/30)</li><li>7. 全職員対象 : 麻薬の取扱い・管理について (2/16)</li></ol> <p>※5-7については、研修会当日に参加できなかった職員を対象に、録画DVD上映による研修会およびe-learningによる研修会を実施している。 ※上記の他、病棟薬剤師が各部署のスタッフに対し、医薬品の安全管理に関連する講義等を行っている (平成27年度は 14回実施)。</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 医薬品の採用・購入について</li><li>2. 医薬品の管理について</li><li>3. 患者に対する投薬指示から調剤までについて</li><li>4. 患者に対する投薬や薬剤管理指導について</li><li>5. 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱いについて</li><li>6. 他施設 (医療機関) との連携について</li></ol>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医薬品情報の周知状況の確認を徹底するため、現在発行しているDIニュースについては、各部署より、情報確認済み署名記載用紙を提出する手順を追加し、月に一度、情報確認済み署名記載用紙を回収することとした。また、緊急安全性情報 (イエローレター) 及び安全性速報 (ブルーレター) が発出された場合は、院内通知文書や院内メール、院内イントラネット、病棟担当薬剤師による情報提供、当該薬剤を使用している患者カルテへの記載を行い、様々な方法で情報提供しているが、院内通知文書での情報発信時に情報確認済み署名記載用紙を回覧し、回収することとした。</p> <p>適応外、禁忌等の処方に係る確認及び必要な指導については、適応外使用として臨床研究倫理委員会にて承認された医薬品ならびに化学療法委員会にて承認された医薬品については、該当診療科の使用ならびに該当患者への使用を確認している。一般医薬品については、これまで、適応外処方については疑義照会として実施し、また、禁忌については、電子カルテ上での警告表示ならびに疑義照会として実施し処方変更を依頼してきた。今回、適応外、禁忌等の処方について、疑義照会として医師へ確認していた内容について、別途、その内容を記録する手順を追加し、あわせて、医薬品安全管理責任者へ報告し、医薬品安全管理責任者が必要だと判断した場合は、該当医師へ適切な指導を行うこととした。</p>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 特定機能病院において特に研修が必要な7種の医療機器は年2回の研修を行い、また新規導入医療機器の使用前研修も行っている。その他の医療機器も日常点検方法および業務引き継ぎ時研修を実施し、必要に応じて年に1回以上の研修を行い記録している。 病院全体の医療従事者を対象に、「除細動器～適応と操作方法～」と「人工呼吸器～使用上の注意点～」の内容で平成28年5月19日に研修会を実施し、安全使用に関する事や注意事項等について研修を行った。4月8日には、研修医採用者ガイダンス時に研修医に対して除細動器や人工呼吸器などの医療機器についての研修会を実施、それ以外も看護師対象の輸液ポンプ、人工呼吸器の研修会を実施している。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 年度初めに例年通り医療機器保守点検計画を立案し、計画に沿って点検を行っている。特定機能病院において特に点検が必要とされる7種の医療機器はもちろん、各部門において、診療で使用されている医療機器についても点検を実施している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の安全情報の収集方法は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA) からの医療機器の有効性及び安全性に関する情報の収集 (PMDAナビ)、そのナビ情報に付随する公益財団法人日本医療機能評価機構ホームページの医療事故情報、臨床工学技士会、日本診療放射線技師会並びに国立大学放射線技師会医療安全情報等により収集している。PMDA情報及び医療事故情報収集等事業報告書等は臨床技術部各部門へ配信し、全員が同じ情報の共有、周知を行っている。 さらに、年に複数回の医療機器安全管理検討委員会、医療機器安全管理担当者会議を開催し、検討した結果を病院医療安全管理委員会へ報告し周知している。院内で関連していると思われる情報に関しては、GRMからRM宛にその都度、メールで配信している。医療機器に関して関係する情報については、医療機器管理ソフトMARISで安全性情報を病院端末から全職員が閲覧できるようにしている。	



(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療に関する安全管理のための指針を10月1日一部改訂し、医療安全管理責任者に病院長補佐(安全管理担当:医科)を充て、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括させることとしている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(6名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室にて情報を収集・整理し、DI ニュースとして発行している。(平成 27 年度の DI ニュース発行回数:89 回)</p> <p>また、医薬品・医療機器安全情報に掲載されている医薬品については、当該医薬品を投与している患者を抽出し、当該患者の電子カルテに、主治医宛に、情報提供を行っている。(平成 27 年度の医薬品・医療機器安全情報の該当医薬品の処方医への周知回数:12 回)</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>適応外使用として臨床研究倫理委員会にて承認された医薬品ならびに化学療法委員会にて承認された医薬品については、該当診療科の使用ならびに該当患者への使用を確認している。その他の医薬品については、適応外処方については疑義照会として実施し、また、禁忌については、電子カルテ上での警告表示し、警告を突破して禁忌薬が処方された場合は、疑義照会を実施し、処方変更を依頼している。(警告を突破して禁忌薬が処方された場合、調剤支援システムにより処方箋に禁忌薬が処方されている旨出力されるため、初回出力時に疑義照会している。禁忌であることを了解して処方継続する場合、次回から処方箋に確認済みであることが出力されるよう設定している。)</p> <p>・担当者の指名の有無 (有)・無</p>	

## ④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

有・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)

・規程の主な内容：

- I. 概念
- II. 対象
- III. インフォームド・コンセントに関する責任者
- IV. インフォームド・コンセント実施に当たって
  1. 患者（家族）への十分な説明
  2. 患者の同意能力
  3. 特殊な状況でのインフォームド・コンセント

## ⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・活動の主な内容：

- (1) 診療記録の受入れ及び管理
- (2) 診療記録の内容点検及び記載指導
- (3) 診療記録の閲覧及び貸出
- (4) 諸統計調査

## ⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

・所属職員：専従（3）名、専任（2）名、兼任（ ）名

うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（ ）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

※専任2名は、2名とも医師の資格を有する常勤職員であり、医療環境安全部安全管理部門に所属し安全管理業務に専ら従事しており、医療安全管理委員会の構成員である。また、医療安全管理者養成研修会において医療安全管理に必要な研修内容を受講し、全過程を修了している。

・活動の主な内容：

- (1) 医療安全を確保するための改善方策に関すること
- (2) 医療安全に係る教育・研修事業の企画及び運営に関すること
- (3) インシデントの分析に関すること
- (4) インシデントに関する診療録や看護記録等への記載状況の確認・指導に関すること
- (5) 患者や家族への説明等の対応状況の確認・指導に関すること
- (6) 医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること
- (7) 医療安全に係る連絡調整に関すること
- (8) その他医療安全対策の推進に関すること

※平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・規程の主な内容：計画書の提出あり
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・規程の主な内容：計画書の提出あり
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有・無

- ・監査委員会の開催状況：年 回
- ・活動の主な内容：計画書の提出あり
- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）
- ・委員名簿の公表の有無（有・無）
- ・委員の選定理由の公表の有無（有・無）
- ・公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 182 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 76 件
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - A. 上記報告の状況の確認及び管理者への報告
  - B. 概要の確認、調査・分析、改善方策の立案・検討を行う

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ）・無）
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ）・無）
- ・技術的助言の実施状況

計画書の提出あり

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況  
患者相談窓口の設置

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

計画書の提出あり

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況

計画書の提出あり

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関名：日本医療機能評価機構 審査体制区分4 (Ver. 6.0) 認定番号：GB0308-03 認定日：平成24年10月5日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院概要において、法令による医療機関の承認、公費負担医療等指定状況等について公表している。 また、ホームページにおいて、各診療科等の特色を発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 救急患者及び複数疾患等においては、診療科を越えて連携して治療にあたっている。	

